



コーディネーターだより No.2



難聴理解授業について

言葉の使い分け：ろう、難聴は聴覚障害に含まれます。

令和4年9月30日（金）
特別支援教育コーディネーター

本校では、特別支援学校のセンター的機能の一環として、地域の小中学校等で難聴理解のための授業を行っています。今年度は、7月に杉戸町の中学校で、9月に白岡市の小学校で授業を行いました。その様子をお伝えします。

中学校

2年生が総合的な学習の時間に「福祉」をテーマにした学習をしているということで、聴覚障害者の生活やきこえ、コミュニケーションについて各学級2時間ずつ説明と体験を行いました。具体的な内容は、以下の通りです。

- ・難聴の種類と程度、補聴器と人工内耳について（きこえ方など）
- ・大宮ろう学園の紹介
- ・コミュニケーションについて（指文字クイズ等）
- ・ろう者の生活について（高等部の石川剛己先生にご協力いただきました）
- ・難聴体験（イヤードیفENDERと耳栓を使用して、伝言ゲーム等）



授業後の感想としては、

☆大宮ろう学園は中学校と違うところがたくさんあり、新しい発見ができた。

☆難聴者への接し方が分かったので、実践したい。（前から話す、一人ずつ話す）

☆難聴の人にも積極的に声をかけたい。

などが挙げられ、聴覚障害について、聴覚障害者との関わり方について、関心をもったり理解を深められたりしたことが分かりました。

小学校

ことばの教室に通う難聴児が在籍している3年生の各学級に、1時間ずつ授業を行いました。難聴児本人からのお願いを伝えることを中心に、話しかける時に気をつけて欲しいことを確認したり、難聴体験をしたりしました。授業の中で「友達のことが分かった。言っていることが伝わるように、ジェスチャーをつけて話したい。はっきり話すようにしたい。」などの発言がありました。難聴の友達への配慮を改めて意識したり、話し手聞き手がお互い工夫することで話が伝わりやすくなることを実感したりすることができました。

